



# 伝統と先進性を活かし、 新たな大学の在り方を 創出してまいります

東京医科歯科大学 学長  
**田中 雄二郎**  
Yujiro Tanaka

広報活動へのご協力、ありがとうございました！



広報誌『Bloom! 医科歯科大』は2002年に創刊し、今回の最終号をもって東京医科歯科大学としては最後の発行を迎えることとなりました。Bloom! 医科歯科大創刊号から、いやそれ以前の広報誌から愛読してきた私としても万感迫るものがあります。関係者およびご協力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

## 本学の歩み

本学は1928年10月12日に官立歯科医学教育機関として設置され、1930年12月に学問と教育の聖地である湯島・昌平坂に移転してから現在まで、医学と歯学の融合を通じて先進的な医療の実践に従事する日本で唯一の医療系総合大学院大学として、その長い歴史を紡いできました。

近年では、本学は1999年に大学院医歯学総合研究科を設置して大学院の重点化を進めるとともに、医用器材研究所を生体材料工学研究所に改組し、一丸となって研究力を強化する体制を整備しました。多くの研究者たちの努力によって医学と歯学が協調しつつ、本学の研究は著しい発展を遂げ、2020年10月には文部科学大臣から世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学として指定国立大学法人の指定を受けました。

教育面では、2002年に医歯学教育システム研究センターを設置し、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」のガイ

ドライン策定という今の医歯学教育の根幹樹立に貢献しました。さらには2004年の法人化以降、米国ハーバード大学との教育提携を通じ、わが国で初めて本格的な診療参加型臨床実習を導入し、全国のモデルにもなりました。医学部医学科においては、主な講義や試験および基礎実習を終えたのち、興味を持った分野の研究について集中的に学ぶことによって科学的視点を有する医師としての基盤を養成することを目的としたプロジェクト Semester (研究室配属)を導入し、学生への研究の視点の養成に努めるとともに、英国インペリアル・カレッジ・ロンドンをは



「近代教育発祥の地」碑

じめとする海外の一流大学との学生交流も恒常的に行い、国際性の涵養にも努めてきました。また、2010年には医歯学融合教育支援センターが設置され、2011年度からは包括的な視野を持つ医療人の育成を目的に、医学と歯学が共通して学ぶべき科目を合同で行う画期的なカリキュラム「医歯学融合教育」が開始され、医学と歯学の教育

交流も進められてきました。

診療面では、世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症パンデミックとの闘いに全学を挙げて第一波から取り組み、附属病院の累計重症患者受け入れ数は都内で第1位となりました。これによって、国民の安全・安心に大きく貢献したと自負しており、また皆様からもそのような評価を頂戴しました。いわば「今日の医療」に貢献した、





# Message

学長メッセージ

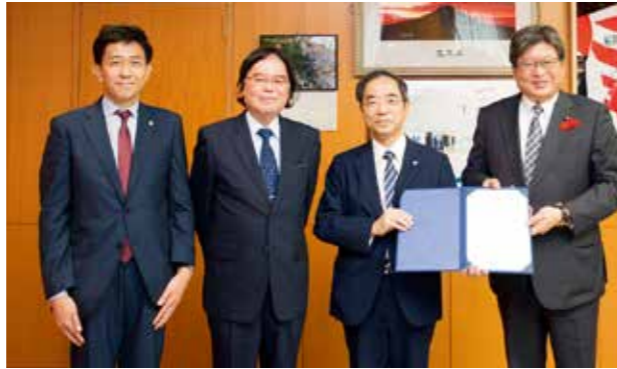
といえます。また、2021年10月には医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化して東京医科歯科大学病院となり、医学と歯学の診療面の連携も進みました。このように本学は、研究・教育・診療といずれにおいても学内が力を合わせつつ発展進化を遂げてまいりました。

## 新大学の目指す姿

2024年10月、東京医科歯科大学は東京工業大学と統合し、東京科学大学として新たなスタートを切ります。東京工業大学との統合を考える一つのきっかけとして、先述の新型コロナウイルスパンデミックへの対応が挙げられます。本学は診療機関であると同時に教育機関であり、研究機関でもあります。「今日の医療」だけでなく、「明日の医療」をも担う使命があるのです。しかしながら、当時は今日の医療を実践するのに精いっぱい、明日につながる研究が十分ではなく、今日と明日、両方の医療を担うには大学としての“体力”が足りないと感じました。より多くの社会貢献を果たすためには現行の大学の枠を超えなければならないと考えようになり、そこから他大学との統合という発想が生まれました。折しも東京工業大学も理工系唯一の指定国立大学法人として世界最高水準への進化を模索していました。最終的に、大学等連携推進法人でも一法人二大学でもない「一法人一大学」となることで合意に至ったのは、教育面でも研究面でも十分な融合は単一大学の方が実現しやすいと考えたからです。志を同じくする両大学が統合することで、それぞれの大学の守備範囲が広がり、より幅広い人材の育成、深い研究を実現できる



力を合わせて患者さんと仲間たちを守る



2020年10月指定国立大学法人の指定を受けました

と考えています。

東京科学大学は、米マサチューセッツ工科大学 (MIT) や英インペリアル・カレッジ・ロンドンなど、これまでわが国に存在しなかった世界最高峰の理系大学を目標としています。そこで、自由でフラットな学風の下、多様な社会課題に立ち向かうために、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを取れんした「コンバージェンス・サイエンス」を展開していきます。自由でフラットな学風とは、お互いの自由を尊重し、自分の役割に自信と誇りを持ってチャレンジしていく文化です。その前提となる多様性、公平性、包摂性など心理的安全性が



2022年10月統合に向けた基本合意書締結

保証されるガバナンスに力を注ぐ方針です。ともに「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学になりたいと考えています。両大学のこれまでの伝統と先進性を活かしながら、統合によってこれまでどの大学もなし得なかった新しい大学のあり方を創出してまいります。

結びに、東京医科歯科大学の長い歴史を支えてくださった数多くの研究者、職員、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。東京科学大学の設立とその発展に向けて変わらぬご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

## 東京医科歯科大学への思いと東京科学大学への期待



10代学長

大山 喬史先生

本学のミッション「知と癒しの匠を養成」。「学びて思わざれば則ち罔(くら)し思いて学ばざれば即ち殆(あやう)し。」「(『論語』)。学ぶ：先知先哲、師匠、読書から知識を得る事。思う：学んだ知識をこの世に生きる自分にどう活かせばよいか思考を重ね、その知恵を実践躬行する事。これこそが「知の匠」たる医療人の真骨頂といえます。仏教の世界でよく聞く言葉「慈悲の心」があります。慈：人が少しでも安らぎの中に過ごせる様に慮る心。悲：人が少しでも苦しめ様にとの願いを込めた心。患者さんの不安、痛み、苦痛を取り除き、患者さんが日常性を取り戻すこと、これこそが「癒しの匠」たる医療人の達成感といえます。このミッションを実践躬行邁進し続けることが、本学のあるべき姿でしょう。



11代学長

吉澤 靖之先生

東京医科歯科大学を世界に冠たる医療系総合大学にするために「己を知れば邪心なし」「積極思考で全力を尽くす」の精神で改革を行いました。将来の大学像を共有する「愛校心」の醸成をはじめとする教職員の意識改革や、全学的に事業を進める統合機構をはじめとする組織改革など、全構成員が一丸となって取り組む体制が整備できました。改革の成果が実を結び、指定国立大学法人に指定されたことは嬉しく思います。

東京工業大学と統合することで、在任中に私が夢に描いたインテリジェントホスピタルやAI、データサイエンス、ロボティクスなどは、飛躍的に進むことでしょう。東京科学大学となっても、これまで以上に「人々の幸せ」に貢献する大学になることを期待しています。

## 広報活動へのご協力、ありがとうございました!

